

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 10 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530843

研究課題名（和文） 地方の課題を歴史的に考察させるための郷土人物教育内容開発研究

研究課題名（英文）

研究代表者

児玉 康弘（KODAMA YASUHIRO）

（新潟大学・人文社会・教育科学系・教授）

研究者番号：70377167

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：教材開発

1. 研究計画の概要

新潟という地方の歴史的課題を考察させるための人物学習教材を開発する。具体的には、川村修就、良寛、山際七司、北一輝、田中角栄など、これまでの社会科教育で、あまり取り上げられてこなかったけれども、それらの人物の生涯や取り組みを学習させることで、新潟の歴史的な課題や役割が見えてくるような教材の開発に努める。

2. 研究の進捗状況

(1) 川村修就については、近世の日本と東アジアの経済構造の中で、新潟を位置づける教育内容開発を行い、日本グローバル教育学会で発表するとともに、附属新潟中学校で実験授業を行い、その有効性を確かめた。

(2) 良寛については、近世幕藩体制内での生き方を倫理的な教育内容として開発し、全国社会科教育学会のシンポジウムで提案すると共に、公民科教育法などの講義で活用している。

(3) 北一輝については、その政治思想と出身地佐渡の風土の関連性を切り口とした教育内容を開発し、日本公民教育学会で報告するとともに、地歴科教育法の講義などで活用している。

(4) 田中角栄については、近代になってからの新潟の「裏日本化」現象に対抗する政策を推進した政治家としての教育内容開発を行い、指導案と教材を開発した。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 山際七司について、新潟市教育委員会指導主事兵藤精一氏と連携して、教育内容開発を推進する。

(2) 開発してきた人物学習の教育内容を、全体としてまとめ、郷土史学習のための大単元として組織する。

(3) 新潟県社会科教育学会などで、開発した教育内容の周知・啓蒙を推進する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

児玉康弘、「政治思想の解釈批判学習 北一輝の場合 -」,新潟大学教育人間科学部紀要,第10巻第2号,127-139頁,2008
査読無し

児玉康弘、「良寛と社会科教育」,教育新報,第157号,8頁,2009,査読無し

児玉康弘、「地域学習のグローバル化 近世新潟湊と川村修就の場合」新潟大学教育学部附属教育実践総合センター紀要『教育実践総合研究』第8号,2009,1-21頁,査読無し

児玉康弘、「新しい歴史研究成果を生かした社会科授業づくり」平成22年度新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」実施報告書,第7巻,19-34頁,2011,査読無し

児玉康弘、「世界史教育内容構成原理の比

較研究」,日本社会科教育学会『社会科教育研究』,第112号,1-14頁,2011,査読有り

〔学会発表〕(計4件)

児玉康弘,「地域学習のグローバル化 近世新瀧湊と川村修就の場合」,日本グローバル教育学会,2008.9.13,岡山大学

児玉康弘,「政治思想の解釈批判学習 北一輝の場合」,日本公民教育学会,2008.6.21,大分大学

児玉康弘,「社会科の再定義は必要か?」,全国社会科教育学会,2009.10.10,弘前大学

児玉康弘,「世界史教育へのコメント」,日本西洋史学会,2010.5.29,別府国際会議場

〔図書〕(計1件)

社会認識教育学会編,学術図書出版社,『中学校社会科教育』,2010,18-25頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕